清水建設株式会社 2024 年 3 月期 第 2 四半期
アナリスト･機関投資家向け決算説明会（電話会議）
主な質疑応答

日　時：　2023 年 11 月 7 日（火）16:00 ～ 17:00
出席者：　取締役社長 井上 和幸、専務執行役員 東 佳樹、
執行役員財務･IR 担当 山口 充穂、経理部長 蜂屋 隆之

Q1：受注時採算の直近の動向についてはどうか。
また、トーチタワーの受注による今後の国内建築工事の利益率への影響はあるか。

A1：受注判断の厳格化は引き続き徹底しており、第 2 四半期は大型工事の受注があったが、受注時採算は通期の目標を上回る水準で推移している。
トーチタワーについては 2022 年 3 月に優先交渉権を獲得した後、相応の利益を確保すべく、発注者と設計の検討や急激な物価上昇について長期間にわたり交渉し、このたび契約・着工となった。
建設事業の支店と同等の位置付けとなる組織「常盤橋プロジェクト」を新設し、全社でフォローする体制も整えている。
トーチタワーは超大型かつ技術的にも非常に難易度が高い工事ではあるが、チャレンジすることにより技術力の向上にも繋がる。
国内建築の利益率については、来年度の急激な改善は期待できないものの、今後 2 ～ 3 年のスパンで着実に回復していくものと考えている。

Q2：トーチタワー以外で、優先交渉権を獲得し契約に向けて現在交渉中の大型案件はあるのか。ある場合、赤字のリスクはないと考えていいのか。

A2：現在交渉中の案件で、予算や計画の見直しを行っているものはあるが、最終的に利益が確保できないのであれば受注しないという方針で取り組んでいる。

Q3：国内建築における工事採算の悪化は、計画に見込んでいたものか。
通期予想を変更していないが、計画外の場合、達成に向けてどう改善していくのか。

A3：国内建築の工事採算は、上期に竣工・引渡しを迎えた複数の大型工事において、工期終盤での工程逼迫による急施工に伴い工事原価が増大したことや、発注者との追加工事の交渉が想定どおりに進まなかったことなどによるもので、期初にある程度は織り込んでいたものの、想定以上の悪化となった。
年度予想の達成に向けては、国内建築工事では上期の悪化要因は一時的なものであ

り、下期は第１四半期以上のパフォーマンスが上がることを期待している。
国内土木工事は堅調に推移しており、さらなる追加変更工事の獲得により利益の上積みを図りたい。
また、開発事業での物件売却や、台湾におけるＳＥＰ船の傭船事業などによる利益の上振れなど、全体でカバーすることにより年度予想の達成を目指していく。

Q4：上期に竣工・引渡しを迎えた複数の大型工事において、工期終盤での工程逼迫による急施工に伴い工事原価が増大したことのことだが、工程が逼迫した背景を具体的に教えてほしい。
A4：個別性が強いため詳細については回答を差し控えるが、コロナによる上海のロックダウンの影響で資材の納入が遅延したことや、他社を含めた他の大型工事と繁忙期が重なり労務が想定以上に逼迫したこと、さらには設計の決定の遅れに伴う製作物の取付の遅れなど、複数の要因により期初の想定以上に工程が逼迫し、引渡し間際の追加費用が発生してしまった。

Q5：国内建築工事の利益率について、複数の大型工事での工程逼迫による急施工に伴う工事採算の悪化がなければ、第１四半期と同程度の利益率となっていたのか。
A5：期初の段階では想定していなかったものを除けば、第１四半期と同等またはそれを上回る水準となっていたと考えている。

Q6：2024 年度からの時間外労働の上限規制に向けた貴社の状況を教えてほしい。
A6：2022 年度の４週８閉所の実績は約 66%であったが、100%の目標を達成するには、もう一息というところだと考えている。
また、適正な工期の確保と４週８閉所プラスαを前提とした受注に取り組んでおり、新規受注案件では、その条件でほぼ受注できている。東京エリアについては繁忙が続いているため、４週８閉所が難しい場合には、個人ベースでの４週８休は達成していくつもり。

Q7：通期予想の達成に向けて、期初の想定以上の不動産売却を行うことはあるか。
A7：開発物件を追加売却することは現時点では考えていないが、計画していた物件の売却による利益の上振れはあるかもしれない。

以　上

《注意事項》

本資料に記載されている内容は、決算説明会の質疑応答を要約した当社の見解であり、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。また、業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。